

令和8年3月（2026年） No.723 素材は料理の仕方で美に輝く

会長 岡本至弘

2月の「OMC・ZOOM会議」で、テーマ「シナリオについて」が議論されました。作品を創る場合に、シナリオは、先に作るのか、或いは後で作るのかで議論されたそうです。私は、所用で居なかったもので、今回は、私がホストで、先月に引き続き、テーマ「作品の作り方」について、皆さんと意見を交換しました。

私は、短歌の会に所属していますので、その過程の中で、「短歌を詠むこと」と「映像を創ること」には共通点があることに気が付いたことを紹介します。

短歌の師によれば素材を味わうことは大切ですが、新鮮な刺身は煮たり焼いたりしません。けれども、素材を引き出すために、わさびや生姜を添え、醤油で食べます。又、とれたての野菜もそのまま食べますが、サラダにしてドレッシングやマヨネーズなどを加えることによって味を引き出して、元の素材を引き立てます。また、生肉は、そのままでも食べますが、焼いたりして調味料で味つけしたりします。短歌は、この作業を「推敲^{すいこう}」と呼んでいます。それでは、ビデオ作品はどうでしょうか、撮りっぱなしでは、それでは見てくれる観客には飽きられてしまいます。せっかく撮ってきた作品を、観客に観て頂くためには、どのように味付けして、調理するかが問われます。作者自身が良いと思っても、見てくれる観客がこの作品は「良かった」と思って頂ける作品、自分の感動をお客様に伝えられる作品を目指したいものです。

ここで、シナリオは、先につくるのか、或いは、後でつくるのかについて考える時、テーマが決まっていれば、撮りたいものを徹底的に調べてシナリオをつくれればいいと思う。しかし、ただカメラをもって撮影に行く場合は、現場になにがあるかわからない場合がある。現場で新素材を発見することもある。そんな場合は、シナリオはあとで考えなければならない。文章を書くときも何回も読み返して作り変えればよい文章が出来ることもある。

短歌は、推敲^{すいこう}を重ねて良い作品を詠むように、映像作品も吟味し何回も作り直すことによって良い作品が生まれます。

春はもうすぐそこまで来ています。カメラを担いで、春を探しに出かけましょう。私の短歌拙作ですが、短歌を二首ご紹介してペンを置きます。

「浅春の冬の名残のまだ去らず春光天地ふるさと想う」

「水温む野辺のせせらぎ水車小屋コトコトコットン春音聞こゆ」

3月例会お知らせ

例 会；3月28日（第4土曜日）13時より、東大阪市立 市民多目的センター 4F 於
遅れないよう、早めにお越しください。

今年の課題コンのテーマ「旅」について考える

相談役 合原一夫

毎年の課題コンの作品は良い作品が誕生して、秋のフェスティバルの出品作となっている。今年の題は「旅」である。宮中歌会始めの儀で翌年の御題が「旅」であったので、OMC 恒例の課題コンの「題」も「旅」となった次第。毎年の御題に比べ、今年の題は作りやすいようにも思われる。何しろ「旅」は皆が多かれ少なかれ経験もしているからであり、撮り溜めた映像の中にも「旅」に関するものを持っている方は多いと思うし又、これから暖かい本格的な春に向け「旅」を計画している方も居られると思う。

但し、コンテストに出す作品となれば、単なる“行ってきました”的な記録であっては入賞は難しい。見る人が行って撮ってきた人と同様に感動するのか、楽しくなるか、或いは共感の気持ちになれるのか、といったものが無ければ、良い作品とは言えない。

初めて行く旅先、特にロケハンのできない海外旅行では、多少の文献で事前勉強するにしても、あらかじめ脚本を作ってそれに合わせて撮影するという事は、まず無理である。私の場合は、海外旅行では撮りながら、特に感じた事を重点的に撮り、撮りながら脚本を考えていくというやり方である。全国アマチュア映像コンテストでグランプリを受賞した「ベトナムの女」は、現地で女たちの働く姿が目には焼き付き、男の働く姿がほとんど見られなかったことから、明るく一生懸命に働く女たちに焦点を絞って撮影し脚本を書き成功した例である。また、同じく全国コンで入賞した作品に「雑草都市」という、インドの大都市で雑草の如くたくましく生きている人たちに焦点を当て纏めた作品がある。国内の旅物では、ビデオサロンを発刊している玄光社主催で「旅の映像コンテスト」に応募して受賞した「水芭蕉の咲く頃」という作品がある。これは、生け花を趣味とする病弱な妻が、私が「水芭蕉の咲くころの尾瀬へ、山岳映画の知り合いと行く」と言ったら「私も一緒に行く！」と行って尾瀬へ同行した時の記録である。水芭蕉を現地で実際に見た妻が涙ぐんで感動した山場に、話を組み立てて脚本化した作品で、ビデオサロン誌上で審査員の方からお褒めの言葉を頂いたことを覚えている。

このように旅の映画作りは、通常、事前に脚本を書くことは難しく、撮りながらまとめ方を絞り込んでいく方法が良いように思う。

画面カットとしては、トップシーンは何にするか、ラストカットはどうするか、は考えて撮り損ねない様に注意しておこう。ラストカットは作品に余韻を残すという意味で眺めのカットを撮っておきたい。

最近では AI によるナレーションの吹き込みを始めた方が出てきたが、ナレーションの吹き込みが苦手な方は、こうした新しい技術を習われるのもいいと思う。字幕が多いと観る人は文字を読むのに気を取られ、画面の方を見るのがおろそかになる難点があるので、やはりナレーションは良い作品創りの一手段として考えてほしい。

皆さんの「旅」の作品、どんな作品が出てくるか、楽しみです。頑張ってください。

令和 8 年 2 月例会

- 運営担当：司会 上総、書記 高瀬、YouTube 関係 高田、映写 江村、メモリー記録 中川良三、受付・照明 森下、大久保の各氏
- 出席者：生田、岩井、植村、江村、大久保、岡本、上総、黒田、合原、高瀬、高田、坪井、中川晃、中川良三、中嶋、道下、宮崎、森下、山本の 19 氏

数年に一度の2月末日の例会。春めいた陽気となり、例会には19名の会員が出席。前月、ゲスト参加された中嶋哲さんと黒田葉子さんが入会され、作品を映写。いずれも情感あふれる個性豊かな作品で、新風が期待されます。

上映作品（今月の書記は高瀬氏）

1. 水盤舎の龍の口 植村朝一 7分47秒 BD

（作者コメント）

秋祭りとお正月以外は閑散とした坐摩神社。特別な日を除いては、水盤舎の龍の口からは手や口を清めるための手水は流れ出ていない。今回、半年を通して水盤舎の龍の口の渇き状態を追ってみた。



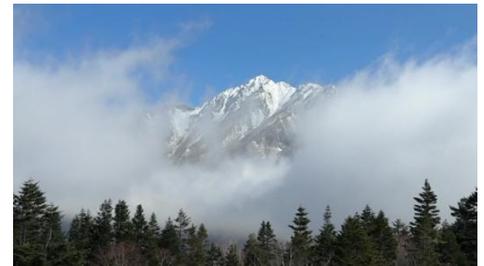
（書記コメント）

普段お参りする人が少ないせいか、坐摩神社では水盤舎の龍の口は渇いたままで、秋祭りや正月など特別な日だけ手水が流される。もっともなことだが、作者のご近所だからこそ、それに気づかれ、映像作品にされた目の付け所が良かったと思います。

2. 奥飛騨の三段紅葉 高田幸夫 7分30秒 DVD

（作者コメント）

新穂高温泉からロープウェイに乗って西穂高口へ。紅葉から白銀の世界へ見事な景色でした。展望台では霧のベールに包まれていましたが、徐々に晴れてきて素晴らしい穂高連峰を見てきました。ナレーションはAIを駆使して作成しました。



（書記コメント）

雲が切れ、次第に現れる穂高連峰の神々しいような映像に魅せられる。山麓の紅葉間近の景色、中腹の色鮮やかな紅葉、そして山頂の雪景色、これを奥飛騨の三段紅葉と呼ぶそうだ。移り行く景色に人生を重ね合わせる語りが作品を彩り深いものになっている。

3. 甦る幻の彩 中嶋 哲(さとる) 22分20秒 BD

（作者コメント）

天皇が正月賛賀の折に飾った幢幡（どうばん）の製作を依頼され創る事に。明日香や奈良文化財研修所にも何回か足を運び、写真撮影に間に合わすため大変な戦いでしたが、完成し大阪歴史博物館他で展示されました。今でも幢幡は活躍しています。日本アマチュア映像作家連盟で6月に明日香方面に行くことになりましたので参考になればと思います。



（書記コメント）

飛鳥・藤原京時代、天皇の正月の祝いの折に飾られた幢幡の復元、製作に取り組まれた記録。京都から明日香に何度も足を運び、構想を練り、図案が出来ると、生地を選定、型染、絞染め、刺繍、縫製などそれぞれの職人の伝統の技で仕上げられていく。その様子を克明に描写された力作であり、幢幡製作に携わられた本人自らがこれらを撮影し、編集し制作されたという稀有な映像作品と言えるでしょう。

中嶋さんはフィルム時代から50年以上にわたって映像の創作に取り組まれており、制作された作品の数は優に1000本を超えるそうです。

4. 冬の小樽 中川 晃 6分31秒 USB

(作者コメント)

昨年久しぶりに冬の小樽に行った時の映像です。小樽では毎年2月に「雪 あかりの路 (みち)」という行事が行われます。

(書記コメント)

小樽の街や運河の歴史などの紹介から始まり、雪降る街、そして夜の雪あかりの路を情緒豊かに描かれており、好感の持てる作品。ただ一部でBGMと街の現音と重なっているところがあるが、どちらかにされた方がいいように思います。



5. 冬の火祭り 高瀬辰雄 12分50秒 BD

(作者コメント)

1月、2月に行われる冬の火祭りを集めて編集しました。火力が日本一といわれる勝部の火祭り、本堂を炎が包む鬼祭り、日本一危険な火祭りといわれる鳥羽の火祭り、3000万本の護摩木が焚かれる阿含の星まつりの4つです。



6. やきもの散歩道 生田幸靖 7分50秒 BD

(作者コメント)

およそ千年の歴史を誇るやきものの町、常滑。同級生と歩きました。

(書記コメント)

愛知県尾張地方にあるやきものの町、常滑を同級生と訪ねられた作品。テロップの文字の形や色などいろいろ工夫し、漫画の吹き出しのようなテロップを入れられたりとか、随所に作者らしい多彩なテクニックを駆使し、やきものの紹介だけでなく、とにかく観る人を楽しませる作品に仕上げられている。



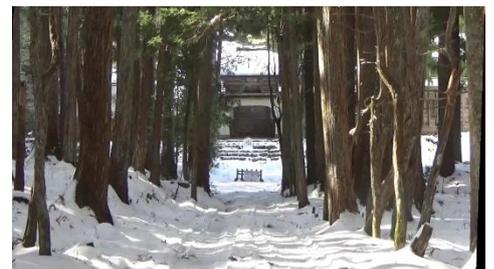
7 女人道 山本正夢 9分30秒 BD

(作者コメント)

雪の高野山を歩きたくて行ってきました。ガイドブックでは3時間半とありましたが、雪と年とカメラで倍かかりました。

(書記コメント)

高野山女人道は明治の初めまで高野山への入山が女人禁制だった時代に女性がお参りするためにたどった道だそうで、歩いてみたいと思われただけに雪の女人道で出会われた風景は、心に染みるものがある。しかし雪の細い山道は足を滑らせば、谷底に落ちてしまいそうな箇所もあり、ツキノワグマも生息するとか (冬眠中?)、よく行かれたものだ后感服します。



8. 柔道部員一人の寒げいこ 上総秀隆 3分

(作者コメント)

母校柔道部が部員ゼロとなって廃部の危機に面していることを憂えて新入部員勧誘のためのプロモーションビデオを制作した。



(書記コメント)

新入部員の勧誘ビデオ、ナレーションで制作の意図はよく分かる。多くの先輩たちが数少ない部員のために協力して稽古をしているという内容ですが、タイトルが取り方によっては、柔道部員が一人で冬の厳しい寒げいこをしているのかなと思ってしまいそうな印象があります。

9. 柳川の雛祭り 合原一夫 11分53秒 DVD

(作者コメント)

九州・柳川市で毎年3月に行われている「柳川雛祭り」は別名「さげもん祭り」とも云われ、観光客も多い。この雛祭りに合わせて OMC 撮影会を実施。2000年(平成3年)3月、この時24名の参加者があった。今は懐かしの撮影会であった。



(書記コメント)

26年前に九州・柳川での撮影会作品。雛人形の周りに柳川まりと縁起の良い布細工を組み合わせた「さげもん」を飾ることで知られる柳川の雛祭り。柳川の堀割を巡るパレードもあり、華やかな祭り風景を情緒豊かに描かれている。24名の撮影会参加とかで、さぞ盛り上がったことでしょう

10. 古道幻影 岡本至弘 10分 BD

(作者コメント)

今から27年前、1999年6月5日～6日に行われた OMC の撮影会作品です。当時の OMC の参加者で、今残っているのは合原さん、江村さんと私の3人です。当時の作品「熊野古道幻想」15分を全国コンに応募するため10分に縮めたものです。私の故郷、熊野古道を訪ねてきた一人の若い女性が平安衣装を着た自分とそっくりの女性を発見、そして行く先々で現れては消える女性の正体とその結末は映像をご覧ください。2005年第39回東京アマチュア映像祭全国ビデオコンクール入選作品です。



(書記コメント)

上記「柳川の雛祭り」の1年前の同じ OMC の撮影会で、シナリオをもとに制作されたドラマ仕立ての作品。丁寧に撮影されており、二役の女性のつながりも綿密にされ、スムーズである。ただナレーションもテロップもないが、短冊に記された和歌を頼りに調べると、旅の女性が出会った平安衣装の女性の正体は和泉式部でしょうか？ 二つの短冊の和歌の意味、和泉式部と熊野権現の伝承を知らないとやや分かりにくいかも知れません。

11. 鉄道連絡船の時代 江村一郎 8分 BD

(書記コメント)

4月に OMC の撮影会が予定されている長浜に行ってきました。駅近くの鉄道スクエアと長浜盆梅展を対象として、今回取り上げたのは鉄道と汽船との関係など明治の時代を背景に作品としました。

(書記コメント)

明治時代、東海道線が全線開通するまで大津と長浜間は琵琶湖を縦断する連絡船が活躍した。その開通に尽力した、実業家、浅見又蔵の功績や、その時代を振り返りながら、現代の慶雲館盆梅展、鉄道スクエアを訪ねられている。浅見又蔵や港など、同じ写真が2、3度出てくるが、古



い写真や資料を駆使し、長浜の昔をうまく描かれている。

1 2. 飛鳥Ⅲ 坪井仁志 5分 35秒
(作者コメント)

BD

郵船クルーズの豪華客船 飛鳥Ⅲが大阪港に寄港してきました。入港は時間の都合で撮れませんでした。出港を撮影できました。オートで撮ると明るくなりすぎゲインノイズも目立つので、できるだけマシなカットを集めて編集しました。
2025年12月2日撮影。



全長：230m 全幅：29.8m

(書記コメント)

豪華客船、飛鳥Ⅲが夕暮れ迫る大阪港を出港していく。ゆっくりと進む船と次第に暗くなっていく夜空、船の背景に浮かぶ大観覧車、それらの取り合わせの妙が印象深い作品にしている。

1 3. 三日市老連 恵方初詣 中川良三 9分 11秒
(作者コメント)

USB

恒例の地元恵方三社詣旅行の様子を映像にしてみました。年々旅行代金も高騰していく中で昨年より10名多い参加人数となりました。55名の参加者全員の姿が撮れているかがポイントです。



(書記コメント)

参加者全員の姿を撮らなければというプレッシャーを感じられての撮影。映像からその苦勞が読み取れます。そのせいか人物、参加者撮影のカメラポジションが上から全体を見渡すようなアングルなのが目立ちます。

1 4. 結び廻る 黒田葉子 6分 50秒
(書記コメント)

「結び廻る」は沖縄の方言で、困った時にみんなで助け合い、その恩返しや優しさが順番に廻っていくという意味だそうです。作品は「結」という文字の字解をしながら、人々とのつながりの映像を深く広く展開していく。カメラワークはもとより、ユニークで豊かな発想が素晴らしい。



1 5. お燈まつり 道下敏行 13分 22秒
(作者コメント)

BD

昨年が続いて今年も熊野速玉大社の飛地境内摂社、神倉神社のお燈まつりを撮影した。今年は神倉山に登り山門前で山門が開くと同時にかけ出す瞬間が撮影できたので今年の映像とあわせて1本に編集した。



(書記コメント)

和歌山県新宮市の神倉神社で行われるお燈祭り、昨年は「一番撮りたかった山門が開き、男衆達がいっせいに下りてくるシーンが撮れなかった」と悔やまれていたが、今年、再びチャレンジされ、男衆達が松明を手に駆け下りてくる勇壮で迫力のあるシーンをバッチリ撮影、リベンジを果たされた。